

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 内日福社会

目 次

事業報告

- ・ 本部 P.3
- ・ グリーンファーム P.4
- ・ 第2グリーンファーム蓮 P.6
- ・ なでしこ P.9
- ・ ぽけっと P.10
- ・ ぱれっと P.13
- ・ びれっじ P.15

2022(令和4)年度 事業報告

本部

令和4年度の給付費総額は約1億8千万円となり、令和3年度と比べるとほぼ同じ横ばいとなった。その内訳をみると、グリーンファームは就労支援による定着率が少なかったため加算部分の報酬単価が下がったこと、また第2グリーンファーム運については月の平均利用率が大幅に下がったことにより減収になった。

しかし、他の施設に関しては増収または昨年同様となった。

支出については昨年同様にほぼ変わらない状況であった。コロナ禍に関する影響も早2年を超え施設の対応もマニュアル化され慣れてきたが、一度利用率が下がってしまうとなかなか元の状態に戻らないようであった。

就労支援事業であるビール事業についてもやっと醸造所の完成の運びになり、竣工式やオープン記念の式典を行うまでになった。結果的にはスタートが約1年遅れたことになるが、コロナ正常化に鑑みてタイミング的には良かったのではないかと考える。ただし、事業収支の状況は、施設本体や設備等は物価高騰前に購入していたものでそのあおりを受けなかったが、専用の付帯設備や製造原価の部分で影響を受けたため初年度の運転資金としてはかなり厳しい状態であることが予想される。

令和4年度事業報告書

グリーンファーム

1. 就労移行支援

令和4年度は1年間での就職定着者数（年度内に就職から6ヵ月経過する人数）は1名、就職者は2名となった。年度前半での就職者が出なかったことにより定着者数が増えず5年度の報酬単価が1段階下がることとなった。また障害者合同面接会を通して就職にはつながったが、仕事内容とのマッチングが出来ていない中で企業と本人の意向優先で就職したケースは短期間での離職となったため、改めて職場や内容とのマッチングの重要性を確認できた。

令和4年度は目標90%に対し94.2%となった。都市部を除き全国的に移行支援の利用希望者が減少しており市内の移行事業所数も減っているが、地域移行へと繋がるサービスとして継続していけるようにしたい。

職場定着支援について、就職初期での訪問や連絡を中心にフォローアップを図った。OB会や企業見学は新型コロナウイルスの影響により中止とした。

2. 就労継続支援B型事業

利用状況について別紙1参照。100%目標に対し令和4年度は95.2%となった。

工賃について、年度末の特別手当を含め実績月額平均20,363円となり、昨年（20,195円）から微増となった。クラフトビール事業開始に向けて作業量と工賃を昨年度同様維持できた。

健康面や生活面について、職員含め新型コロナ感染者が増えたが徹底した感染対策を行ったこともあり事業所内でのクラスターは発生しなかった。就労意欲の向上についてはグリーンファームでの作業に対するやりがいは感じて頑張る方が多いが、一般就労への意欲はなかなか上がらない状況であるため引き続き啓発を行い、移行支援利用から就職の流れを作っていきたい。

3. 就労支援活動

①農地環境保全事業

農事組合法人うついの草刈作業は予定回数を終えることが出来ず年3回の作業となった。作業できる利用者が少ないため今後面積や回数等を検討する。その他契約中の作業については実施した。

②住居環境保全事業

契約中の作業については継続実施した。ある程度参加利用者を固定することで作業効率上がり時間短縮とスキルアップにつながった。

③農産物生産・販売・加工・その他

栽培計画通り実施。暑さのため想定通り栽培できなかった品目もあったので管理に気を付ける。ホップの栽培は3年目に入り、収量はそれほど多くはないが安定して収穫することができるようになった。醸造の原料としてはもちろんのこと、地域活性化へのツールとして今後も栽培技術を高めていく。

④酒類販売・クラフトビール事業

昨年度同様、和歌山ブルワリーでの委託醸造により4種類の発泡酒を販売。令和4年4月～令和5年3月の販売数量は約2,320Lとなった。年度後半は醸造免許取得と稼働に向けて委託醸造量を減らしたため3年度より販売量は減ったが、卸売が無い中でも2KLの販売が出来たことは醸造開始後につながる結果だと感じた。

醸造所について、12月12日に建物登記完了し2月に醸造機器搬入設置行った。

酒類製造免許について、建物及び設備の遅れもあり申請から約6ヵ月かかったが、4月27日に取得することができ、4月30日より醸造を開始。6月のオープンに向けて準備を進める。

事業別売上一覧（単位：円）

	農地環境保全事業	住居環境保全事業	加工・その他	酒類販売事業	合計
令和4年度	8,616,460	432,700	2,739,642	3,262,822	15,051,624

4. 共通事項・その他

①年間行事等

スポーツ大会、収穫祭は中止。レクリエーションは新型コロナウイルスを考慮して感染対策を行いながら実施した。久しぶりだったこともあり参加率も高く利用者も楽しまれた様子であった。

②会議・研修等

計画通り定期会議と月2回の職員会議を行い情報共有やケース会議を行った。外部研修や会議へオンラインも含め参加した。醸造研修は昨年10月で修了。

③その他

山口県赤い羽根共同募金会よりクラフトビール販売配送用として冷蔵車（軽）、社会福祉法人清水基金より送迎車としてマイクロバスを寄贈いただいた。

2022(令和4)年度 事業報告

第2 グリーンファーム蓮

1. 概要

令和4年度を終え、1年間の結果を集計したところ、月の平均利用者数は、15.7人、月の平均工賃支給額は、25,339円であった。令和3年度と比較すると、平均工賃こそこれを上回ったものの、平均利用者数は大きく下回る結果となった。

一方、利用者の動向では、年度の途中で2名の退所者があり、これに対して3名の利用者が新たに加わったが、後者新規利用者の利用予定(計画)はいずれも週数日と限定的であり、残念ながら利用者数増には繋がらなかった。合わせて、長く在籍されている高齢利用者の入院が相次いだことや、難病を抱えた利用者が体調を崩され、長期離脱を余儀なくされたこと等が、平均利用者数減の要因となった。

こうした高齢利用者や難病を抱える方々に対しては、体力や身体機能の低下、あるいは、病状の変化に応じて、適時新たなサービスへの移行を提案していくこととなるが、その新たな生活スタイルを受け入れてもらうためには、何よりご本人の納得と、支援関係者等との連携が重要となる。

彼らの意欲や自尊心を大切にしつつ、それぞれのタイミングで新たな生活スタイルにソフトランディングしてもらえるよう支援していきたい。

2. 就労支援活動

年度当初、工賃の時給設定を、室内軽作業については230円、博物館の清掃作業については300円としてスタートしたが、自転車部品の仕事が変わらず好調に推移し、想定を超える収入があったことから、暫定的な措置として、年度末の2月、及び3月の2か月間の時給設定を見直し、前者を600円、後者を670円まで引き上げて利用者に戻元した。

結果として、最終的な令和4年度の平均工賃月額は、年度当初に目標として設定した20,436円を大幅に上回ることが出来た。作業種毎の振り返りは以下の通り。

(1) 室内軽作業

① 自転車部品組立

長引くコロナ禍にあっても引き続き自転車関連の仕事は好況で、令和3年度には500万円に迫る勢いで伸びた売り上げが、令和4年度にはいよいよ500万円を上回った。

しかしながら、この好況もここがピークであったようで、新年度に入り、その仕事量は急激に減少に転じた。これを補う新たな作業種の開拓が急がれる。

②釣り用鉛封入作業

年間を通じての売り上げは20万円程で、今年度もこれに上積みはなかったものの、毎年安定して受注がある。柱となる自転車部品の仕事の合間を埋める有効な作業種と捉えており、この仕事を楽しみにしている利用者も多いよう。

③その他の室内軽作業

引き続き、地域の皆様にもご協力も頂いて、アルミ缶の回収、リサイクル等にも取り組んだ。

(2)施設外作業

①下関市考古博物館館内清掃作業

入札を経て、令和3年度に続き、令和4年度もこの仕事を引き受けることが出来た。利用者3名とスタッフ1名がユニットを組み、週4日、午前中の2時間～3時間程度の作業だが、現在、6名の利用者が交代でこれに出ておられる。時給はこれを最も高く設定しており、これに選ばれた方は、毎回意欲的に取り組んでおられるが、彼らに代わる新たなメンバーが育っていないのが支援者側の課題。現在利用登録されている方だけでなく、広くこうした作業に興味のある方、将来こうした仕事に就きたいと考えておられる方々にも、この取り組みと経験の蓄積を知って頂き、新たな利用相談に繋がるよう、様々な機会を通じて紹介の予定。

②安養寺清掃作業

令和3年度までに、草刈り等の野外作業を順次お断りし、令和4年度からは、野外作業はこれだけに整理した。現在、事業所の移転を検討中であるが、ここをお借りしている間は、引き続き可能な範囲で参道他の清掃作業を担う予定。

3. 年間行事 その他

日々忙しく作業があり、それに追われる中でも、利用者のモチベーションに繋がればと、出来る範囲でレクリエーションも企画、実施した。

コロナ禍で、外出を伴う企画は積極的に提案しづらい状況が続いたが、幸いここ数年試行して来た少人数での外出が利用者にも定着しつつあり、この経験を通じて、利用者の方からも積極的に“次に行ってみたい場所、や“次にやってみたいこと等、具体的な意向・希望が聞かれるようになってきた。

とはいえ、実際には、まだまだ経験が不足しており、買い物や外食の場面で支援を必要としている方が多くおられる。自身が頑張って働き、その対価として得た工賃を有効に使い、それがまた翌日からの通所や作業参加のモチベーションに繋がるよう、引き続き、レクリエーションや利用者向けの勉強会等を通じて、お金の計画的な使い方や、充実した余暇を過ごすためのスキルを支援していきたい。

4. 職員研修

コロナ禍でリモート研修が増えたことで、これまでのように同じ場所に一堂が会しての討議やコミュニケーションの機会は減ってしまっただが、一方で、これまでは参加が叶わなかった遠方開催の研修や、これまではなかなかその機会を得ることのなかった貴重な講師のお話も聞けるようになってきた。 スタッフ体制が厳しい中でも、リモートであれば、調整次第では複数のスタッフでの受講も可能であり、中には、視聴時間に幅のある研修もあって、これであれば、個々に余裕のある時間を選んで視聴してもらうことも出来るので、引き続き、可能な限り受講を検討・調整の予定。

令和4年度 事業報告書

グループホームなでしこ

事業実施概要

外部サービス利用型共同生活援助事業

利用定員 8名

職員：管理者 1名

サービス管理責任者 1名

世話人 2名

令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、ワクチン接種、抗原検査の実施、検温、手洗い消毒、マスクの使用、不要不急の外出を控えるなど、さまざまな配慮が求められ、体調管理に細心の注意を払った。感染の心配から精神状態が不安定になる方もおられた。

5月に40歳代の利用者が一般企業に就職された。現在もほとんど休むことなく勤務されている。利用者の障害種別は精神障害と知的障害で年齢は30歳代から60歳代である。高齢化が進み、腰痛など加齢に伴う症状、生活習慣病やアレルギー疾患のある方への対応が必要となった。

体調管理、余暇活動、食生活、衛生面、身の回りことなど日常生活に関することにおいて支援を行なっている。特に居室の片付けや掃除はプライバシーに配慮しながら支援を行なった。日頃から細やかな声掛けをしてコミュニケーションをとり、気になっていることや困っていることなどを気軽に伝えやすい雰囲気をつくるように心がけた。

利用者は日中活動としてデイケアや就労支援施設を利用されており、各関係機関との連絡調整を行った。また行政機関や病院、家族との連絡調整、通院同行、各種手続の支援を行った。

社会福祉協議会の権利擁護事業を利用されている方もおり、連携のもと金銭管理を行った。

地域連携として自立支援協議会に参加した。施設外研修、法人内研修では障害特性の理解、虐待防止など支援のスキルアップを図った。毎月世話人ミーティングを実施し利用者への共通認識を持つことを心がけた。

3. 放課後等デイサービス事業（合わせて定員 10 名）

- ・営業時間：月、水 下校後～17:00
1、3 土 9：00～13：00／13：00～17：00 2、4 土 10：00～16：00
- ・利用登録：39 名
- ・移行状況：6 名（中、高）
- ・イベント：B&G 財団主催 『体験格差解消事業』に参加
カヌー、マウンテンバイク、火起こし体験

学校で頑張りの頑張りから、イライラしたり、激しい行動になったりすることもある。

そのため、ぽけっとで運動プログラムやスライムなどの感覚刺激などを取り入れ、自分の好きな感覚（運動したらスッキリした！）に気づけること、また、自分でわかって行動できることで発散になり、ご家庭で落ち着いて過ごせ、また明日頑張ろう！につながることを目指して日々の支援に努めている。

4. 保育所等訪問支援事業

- ・訪問支援員：2 名
- ・訪問回数：1 件に対し月 1 回程度
- ・訪問実績：登録 10 名

保育所等訪問支援事業 2 年目となり、保護者の方からの依頼の元、10 件の訪問に携わることができた。保護者の方から、園での集団の様子や同世代の子との関りがわかり、小学校にどの部分を伝えたらよいかわかったなどのお声を頂いた。園と事業所、家で共通の関りが持てたり、役割が明確になったりしたことでより情報交換しやすくなったと感じている。

5. 地域活動支援センター基礎的事業（日中一時支援）

地域活動支援センター基礎的事業は、人員配置の関係もあり行っていない。

6. 会議

定例ミーティング…毎週 1 回 シフトと利用者の確認 留意事項の共通認識
ケース会議 …学期に 1 回
関係機関ケース会議…計画相談におけるケース会議、ほかに連携会議

7. 啓発事業

オンライン学習会の開催…保護者／関係者の理解を深めるため
自治会掃除に参加

8. その他福祉活動

関係機関との連携会議に参加

9. スタッフ研修

保護者学習会への参加
広域学習会・専門的学習会への参加
コミュニケーション技術の習得
自主研修会への参加

2022年（令和4年度）事業報告

ぱれっと

1 事業実施概要

開所11年目となり、利用児の年齢は中高生が8割を占め、大人の暮らしをイメージした支援や相談内容が多くなっていった。市内の放課後等デイサービス事業所の充実に伴い、療育を必要とする子どもたちの居場所が繋がりやすくなった一方で、療育の在り方、支援の質の向上、関係機関との連携の強化が一層求められるようになった。

令和3年度からの法改正に伴い、基本報酬と加算の体系が大幅に変更された。新たに専門的人員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理指導担当職員・国リハ視覚障害学科履修者）の配置の必要性が高い中、ぱれっとに専門的人員の配置はなく、加算報酬の減額となる。さらに、コロナの影響や中高生の職場実習や部活動での休みも重なり利用率の低下に影響があった。

コロナ対応も長引く中、感染対策の徹底を続け、コロナ渦でも出来る取り組みや活動についてスタッフ同士で協議し工夫していった。

新たに身体拘束適正化委員会が設置され事業所内で周知を行った。

療育におけるサービスの質の向上のための専門性知識と技術の強化は必須課題であり、研修とスタッフ同士での協議を重ね、関係機関（教育・医療・福祉・相談等）との連携を図りながら事業展開をしていった。

療育活動では、個別の療育を日々スタッフ同士で工夫し、また体験格差体験事業への参加が3年目となり、カヌー体験や火起こし体験に加えマウンテンバイク体験などの活動にもチャレンジしていった。新たな活動として交通安全教室を開催した。

保護者サロンの開催を行い、安全に提供できるよう留意し交流できる機会をもった。

日々の業務内容では、支援について職員間で悩むことも多く、メンタルヘルスケアや働きやすい職場環境へのサポート体制の強化を行った。

2 事業内容

日々の療育では、子どもたちが好きなことや得意なことを生かしながら、自分で分かる事や自分でできる事を増やし、コミュニケーションの方法や必要なスキルを学ぶ。

将来の豊かな暮らしのために'今、出来ること（学び）は何かな？'を一緒に考え、子どもたちのライフステージに添って必要な育ちを経験する。

1) 放課後デイサービス事業

月～土 9:00～17:00 定員10名
(平日:総合支援学校 土曜日:地域の学校・支援級)
利用登録 88名

小学生 26名
中学生 39名
高校生 23名（令和4年度卒業生8名）

2) 研修・会議（資料2）

スタッフの知識・技術の向上、利用者のニーズに応じた支援に取り組めるための研修会に参加（リモート）

スタッフの共通認識を図り、日々の取り組みのための確認、協力体制の強化・連携のための会議（・ミーティング…月1回 ・ケース会議…月2回）

- ・関係機関連携会議…計画相談の呼びかけによる担当者会議に出席
個別支援計画作成のための会議・面談
- ・自立支援協議会…子ども部会児童通所分科会

3) 啓発事業

保護者サロン開催

4) 地域の福祉活動に参加

ライトアップブルー（自閉症啓発）
アースデイ関門（中止）
馬関まつり愛のひろばに参画
オレンジリボンタスキリレーに参画
赤い羽根共同募金活動に参画（中止）
福祉フェスタに参画（中止）

令和5年度は地域の福祉活動が開始されている。
安全対策に徹底しながら活動への参加を目指す。

2022（令和4年度）事業報告

びれっじ（相談）

1. 事業実施概要

新事業所2年目、山口県発達障害者コンサルテーション強化事業西部エリアマネージャー業務委託も2年目、相談支援専門員2名に相談員1名事務員1名の体制で事業を実施いたしました。

相談対象、内容は、幼児から大人まで、相談内容も生活リズム・学校生活・就労・生活支援と生活全般にわたり、かつ多くはコミュニケーション支援、心の安定（そのために起きる依存等）、不安の解消というものでした。感染症拡大防止・予防のための自粛も丸3年、常に緊張ではありましたが、対面の面談を意識して、安全に生活しつつも楽しくストレス少なく生活することの理解と実践に努めたつもりです。

ストレス下での生活のため、より深刻な状況が多くあり、専門的な知識や支援のスキル向上を意識することが多くありました。そのため自己研鑽のための研修会、関係機関との連携等に積極的に参加、実行してきました。

自立支援協議会では、こども部会と通所分科会、生活介護部会、相談部会に属し、生活介護部会、通所分科会で事務局としての企画・連絡・運営に携わってきました。

前年度に引き続き児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所の質の向上のために取り組みを続けました。その結果、実際に事業所に出向き研修やグループワーク等を行ってきました。（市内7か所）

くらしの部会においても、支援の充実とそのためスタッフの確保について、研修協議を継続しています。

相談部会でも、複雑な現状やニーズに合わせて研修や情報交換をしているところである。

山口県発達障害者コンサルテーション強化事業西部エリアマネージャー業務では、2年目さらにエリアや種別の広がりがあり、別紙のとおり、医療・保育・教育・福祉・企業から個人、組織へのご相談があり、委託を受けた効果があったと考えています。特に市内総合支援学校間でも研修会等の実施ができ、効果は大きいと感じています。（2023年度も引き続き受託）

2. 指定特定相談支援事業／指定障害児相談支援事業実績

- ・計画相談…新規サービス利用支援・継続サービス利用支援
- ・基本相談…相談一般
- ・指定一般相談…地域移行・地域定着
- ・認定調査

3. 研修

2019年度から山口県のサビ管・児発管研修に携わり、全国、県内の情報を得ながら、養成研修に携わってきました。2022度も基礎研修・更新研修の他、相談支援専門員基礎研修でも講義を担当し、専門別研修で組み込まれる「意思決定支援」についてコアとなり研修の企画・運営にあたりました。

「児童分野研修」については、担当者として研修を受講し、関係機関体制を構築し、2023（令和5）年企画実施、運営にあたるまでに至っています。

支援の基礎研修でもある強度行動障害支援者養成研修では、引き続き、下関の担当チームに所属し、研修講師・ファシリテーターを務めました。次世代移行のために同事業所の相談員も加わり、引継ぎを意識しております。一度の研修では現場での適切な支援の実践には至らないことも多く、下関市内でともに考え相談できる関係ができるように定例の検討会を実施しました。

4. 地域連携

- 1) 関係機関ケース会議…計画案作成にあたり、学校、幼稚園、保育園との連携、特に就園、就学、進学、卒業の節目には特に重点を置いて会議を行ってきました。昨年度に引き続き、ぽけっと開所当時からご利用の方の卒業が多くあり、大人の暮らし「生活介護」「就労」事業所との連携が必要でした。卒業後からの人生が長いこともあり、それで終わりではなく、さらに充実した生活のための理解の共有、支援の充実のために努めたいとおもいます。児童期以上に理解の共有が必要であることを実感しています。
- 2) 自立支援協議会 こども部会 会議1カ月に1回
通所事業所分科会 1ヶ月に1回
*リモート・会場でのハイブリッド実施
くらしの部会 会議1か月の1回
*障害者週間にあわせて啓発活動実施
⇒シーモールエキマチひろばとの協働
相談部会 2ヶ月に1回
事務局会議 2ヶ月に1回
地域移行・居住支援部会 2カ月の1回
地域拠点部会 2カ月に1回
- 3) 相談従事者研修相談「意思決定支援」担当…研修企画・運営
・サビ・児管基礎研修の講師・ファシリテーター
・サビ・児管更新研修ファシリテーター
- 4) 強度行動障害従事者研修の講師・ファシリテーター(光・山口・下関)

5. 地域啓発活動等
 保護者のための学習会 リモート実施
 地域の支援者のための研修会 リモート実施

6. 家族・きょうだい児支援
 体験格差解消事業 マウンテンバイク体験教室 野外調理 等実施

令和4年度 山口県発達障害者コンサルテーション強化事業 成果報告書

令和5年3月31日

事業所名 びれっじ

1 概要

(1) 関係諸機関との連携

相談支援・発達支援 (*下記を除くすべての ケース)	関係機関職員への 助言(機関コンサルテ ーション)	支援先	実支援機関数	18 機関
			延支援回数	46 回
		支援対象者	実支援人数	82 人
			延支援件数	94 件
	調整会議		延支援件数	3 件
相談支援・就労支援 (*就労支援に重点を置 いた支援が行われたケー ス)	関係機関職員への 助言(機関コンサルテ ーション)	支援先	実支援機関数	4 機関
			延支援回数	6 回
		支援対象者	実支援人数	4 人
			延支援件数	6 件
	調整会議		延支援件数	0 件

(2) 普及啓発・研修

関係施設及び関係 機関に対する普及 啓発及び研修	主催又は共催で企画した研修	実施回数	23 回
		延参加人数	997 人
	外部から講師依頼を受けた研修 (講師派遣)	実施回数	37 回
		延参加人数	628 人
	(再掲) 教育関係者との合同研修会	実施回数(内数)	11 回
		延参加人数(内数)	420 人

(3) 地域の関係諸機関の連携システムづくりに係るサポート

障害者総合支援法第 89 条協議会等への参加状況※	参加回数	5 回
他の協議会への参加状況	参加回数	0 回

※障害者自立支援協議会